

【パブリックコメント結果】第三期丸森町子ども・子育て支援事業計画案に関するご意見の内容と町の考え

- 1 実施期間 令和7年2月14日（金）～令和7年2月28日（金）
- 2 意見数 7人 42件
- 3 ご意見の内容と町の考え（回答）

No	ご意見の内容	町の考え（回答）
1	産後ケアについて、男性も育児休暇を取り育児をしている家庭も少なくないの で、女性だけではなく男性もサポートされるようにしてほしい。	現在は、国の産後ケア事業制度に基づいて事業を実施しており、利用費用の助 成も母子を対象としていますが、産後ケアが利用できる施設の中には、父親への 支援を行っている施設もあります。町としても、その拡充に期待しています。
2	産後ケア利用について、遠い事業所でしか受けられない。町内もしくは近隣で受 けられないか。	町内に産後ケア事業を利用できる施設はありませんが、近隣市町（岩沼市、蔵王 町など）の施設を利用することができます。また、自宅への訪問によりケアを受け ることができる事業所（助産院）もありますので、産後ケアの利用を希望する方 へこれらを周知していきます。
3	こどもが夜間や休日に体調をくずした時、丸森で受診できる場所がない。みや ぎ県南中核病院や近隣の病院に具合の悪いこどもを連れて行くのは負担が大 きい。	町内には、小児科の医療機関がありませんので、大変ご負担かと思いますが、休 日や夜間の受診については、休日当番医や仙南夜間初期急患センター（みやぎ 県南中核病院）をご利用ください。なお、こどもの急な発熱やケガなどで、受診の 目安や対応の相談窓口として、「宮城県こども夜間安心コール（#8000）」や 「産婦人科・小児科オンライン医療相談事業」などが利用できます。保護者の不 安等の軽減が図られるよう、今後更なる周知に努めていきます。
4	子育て支援センターについて、平日親は仕事のため、こどもはこども園に行っ ており利用できない。土曜開放日もあるが、普段行き慣れていないとハードルが高 く感じてしまう。土曜開放日を試験的に毎週やってみるなど、就労家庭でも、行き やすい支援センターになるような改善をお願いしたい。 アンケート調査項目の「子育て支援センターを利用していない理由」に回答した 「その他」の内容はなにか。「本当は子育て支援センターを利用したいのに、利用 できない」という意見がどれほどあるかを明らかにできるような設問が必要では ないか。	運営主体の丸森町社会福祉協議会とご意見を共有します。 また、アンケート調査の、子育て支援センターを利用しない理由「その他」の回答 は、「必要がない」、「こども園を利用しているため休日は家族と過ごしたい」など と回答しています。ご意見を踏まえ、計画書本編（アンケート調査結果概要）へ加 筆いたします。 なお、アンケート調査項目へのご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。

No	ご意見の内容	町の考え（回答）
5	「子育て支援グループの自主活動支援」とはどのような内容か？詳細が決まればぜひ広く周知してほしい。やってみたい人の背中を押すことに繋がり、子育てに関するコミュニティが複数できれば、町での子育てを今より楽しめるようになる人が増えるのではないか。	この事業は、町内で子育て支援に関する活動をしているグループ（団体）が、活動を継続できるよう支援する取組です。協働団体の丸森町社会福祉協議会とご意見を共有し活動の周知等について検討します。
6	ファミリー・サポート・センター事業について、事業化してほしい。（意見数3件）	事業の検討に取り組んでいきます。なお、相互に援助する事業ですので、預かり等を希望する方と援助を考えている方と一緒に考えていければと思います。
7	「一時預かり事業」について、土日出勤する家庭やひとり親家庭などは預け先がないと仕事に行けない。平日以外にも隔週でも良いので土日祝日も利用できるようにしてほしい。	運営事業者（丸森町社会福祉協議会）とご意見を共有し検討していきます。
8	「子育て世帯が安心できる町営住宅の提供」について、ひとり親世帯でも定住促進住宅に入居できるようにしてほしい。ひとり親世帯は決して少なくないので入居できるようになると生活しやすくなると思う。	町が管理・運営している住宅にはそれぞれ目的があり、入居できる要件が異なります。町営住宅（町内9箇所）や定住促進住宅（サンコーポラス丸森）は、ひとり親世帯も入居できます。若者定住促進住宅（町内4箇所26戸）は、新婚子育て世帯が対象で、ひとり親世帯は入居できません。ご意見を参考にし、今後もニーズに対応した住宅を提供できるよう進めていきます。
9	「妊娠・出産祝金支給事業」について、「希望があれば町長訪問」としてほしい。（意見数2件）	参考にさせていただきます。

No	ご意見の内容	町の考え（回答）
10	「家事・育児支援サービス利用応援事業（WARASKOクーポン）」について、仕事をしている家庭でも使いやすいよう、休日でも利用できるようなものに幅を広げて欲しい。整体やおむつ、おしりふきの購入等に充てられないか。（意見数5件）	クーポンの利用については、各事業所によってサービスの内容や利用可能日・時間等に違いがありますので、ご利用になりたい内容に合う事業所と相談していただければ、と思います。また、ご意見については事業所へ共有します。なお、事業所・利用者双方の安全等のために設けている制限がございますので、ご理解ください。 本事業は、日々家事・育児を頑張っている保護者にホッと一息ついていただき、こどもとのふれあう時間にゆとりを持っていただくことを主な目的としています。多くの保護者に認知いただけるよう、今後も周知していきます。 おむつやそのほかのサービスへのクーポン利用につきましては、子育て支援事業全体の中で検討していきます。
11	保育施設で、3歳以上児の主食（ごはん）を提供してほしい。（意見数5件）	主食の持参も含め、保育施設での食事提供につきましては、運営事業者（丸森町社会福祉協議会）が決定し実施しております。ご意見は運営事業者と共有します。
12	子育てにかかる経済的負担の軽減について、産後の育休手当のような生活費の補助を受けられるようにしてほしい。最低でも、産前6週間産後8週間の保証、欲を言えば、保育施設に預けられるまでもらえると、安心して子供を産むことができると思う。	子育て世帯への支援として、国の制度においては児童手当や子育て応援給付金、町でも様々な経済的支援を実施しております。ご意見は今後の子育て支援事業の参考とさせていただきます。
13	子供が自然と触れ合う機会が増えることを期待している。全国的に自然の中で行う教育へ関心が高まる中、町内の子育て世代の間でも「丸森の自然の中で子供を遊ばせたいが機会がない」という声が多く聞こえてきている。 今後、丸森町林業振興ビジョンに基づき、教育旅行の実施の検討や施設整備の検討などがされていくと思うが、まずは『町内の子どもたち』を対象とした遊びや学びの機会の提供を率先して実施していただきたい。	令和元年東日本台風災害を経験した本町のこどもたちが、植樹を通じて、森林への関心を持つことや、森林の大切な役割を学ぶ機会とするため、令和6年11月「まるもり子どもの森林植樹祭」を羽出庭地区の町有林内を会場に開催しました。町内の小学校6年生が参加し、記念植樹や羽出庭地区で発生した山林火災や土砂災害、森林の持つ役割の学習、丸太切り体験などをしました。この6年生が植樹した「子どもの森林」を次代につないでいくために、次年度以降も、保全活動事業として開催します。また、「丸森町林業振興ビジョン」では、町民の森林への関心を高めることや、地域活性化の観点から、森林フィールドを活用した施設整備について検討していくこととしています。
14	こどもがのびのびと過ごせる居場所の確保として、小さくてもよいので地区に一つは遊具のある公園を設置してほしい。廃校や空き家、耕作放棄地などたくさんあると思うので、それらを利用して一時的なお金がかかるかもしれないが、今の子供たちに投資すると思えば必要なことだと思う。（意見数4件）	事業担当課（企画財政課、子育て定住推進課）や関係団体等と連携し「こどもの遊び場の確保」の取組の中で検討を進めていきます。

No	ご意見の内容	町の考え（回答）
15	「図書環境の整備」について、町内の既存の図書施設では限りがあるため、多くの住民が、角田市、大河原町、新地町等、町外の図書館の利用を強いられている。町内の図書コーナーを充実させるとともに、近隣自治体との連携を強化し、町民の読書環境充実へ向けて取り組んでいただきたい。	事業担当課（企画財政課、生涯学習課）とご意見を共有します。なお、令和7年3月に丸森まちづくりセンター図書室にキッズスペースを設置しましたのでご利用いただければと思います。
16	町内を行き来する公共交通機関、バスがあると子どもが自由に動いていいのではと思う。現状、親の送迎がないとどこにも行けないのは、子どもも窮屈ではないか。	平日運行ではありますが「AI乗合ミニバス あし丸くん」がございます。運行ダイヤや路線の制限がなく、ご自宅から町内施設（公共施設やお店等）間で自由に移動が可能です。小中学生は、子どもだけでも利用できます。
17	<p>子どもへの虐待のニュースが流れるたびに、丸森町では大丈夫だろうか、と心配になる。子どもと地域の接点も減少している今、困っていそうな子どもを見つける目線を地域側で育てていく必要があると感じる。一部への研修を実施するだけでなく、もし心配になる子がいたときにどんな行動をとればいいのか、分かりやすく周知してほしい。</p> <p>警察に通報するのはとてもハードルが高いことだと思うので、段階的に相談先を用意すること、間違いかもしれないと思っても、相談していいと知らせること、そうした環境づくりにぜひ取り組んで欲しい。</p> <p>それと同時に、保護者が虐待してしまうほど追い詰められる状況を作ってはいけない。複合的な要因によって虐待に至るという前提に立ち、命が関わっているという認識を強く持ってトータル的な子育てのしやすさを目指していただきたい。</p>	<p>地域で家庭に不安があるような子どもを発見した場合には、一義的にはWARASKO（丸森町子ども家庭センター）が窓口となります。このことを引き続き発信していきます。</p> <p>児童虐待防止の啓発については、5月・11月の子どもまんなか月間に合わせ、保育施設及び小中学校を通じ、チラシ等を配付して相談窓口の周知を行っているほか、随時広報まるもりにて通告先の周知を行っているところです。</p> <p>また、妊娠期から産後、子育て期の伴走支援により、虐待の未然防止に努めていきます。</p>
18	家庭環境と子どもの学校での生活態度には大きな関わりがある。どちらかに問題が発生した時、一方にも少なからず影響が生じると考えると、学校教育担当課と家庭子育て担当課、また、それに関わる関係機関は密に連携を取り合いこまめな情報共有や必要に応じた対策が必要だと考えるがそうした機会はあるのか。	教育委員会・保健福祉課・子育て定住推進課において、定期的に情報共有の場を持つとともに、日々必要に応じた情報交換を行っており、今後も継続していきます。
19	訪問事業や検診が年々増えているが、親は対応に追われるばかりで負担が増していると感じる。検診の時間は毎度午睡の時間と重なるため、不機嫌になった子供達をなだめて参加することになりとても疲弊する。ちゃんと子育てができていないか監視されているようで、本当に寄り添いになっているのか疑問を感じる。それぞれの家庭のニーズにあった形で対応できるよう柔軟なサポート体制の構築をお願いしたい。	<p>妊娠・出産・子育て中は、刻一刻と家庭の状況が変化する時期です。その中で、いざ困ったときに自ら声を上げられる状況ばかりではなく、声なき声を取りこぼさないためにも、国をあげて伴走支援の強化を行っており、本町でも特に力を入れているところです。</p> <p>現行の訪問や健診等は、それぞれの家庭に合ったサポート体制を検討するうえで最低限の頻度と考えておりますのでご理解をお願いします。</p>

No	ご意見の内容	町の考え（回答）
20	不登校・引きこもりの状態に陥ると、外出自体が困難になるため、対面ありきの支援体制では不十分であると感じる。特に移動手段が限られる丸森町では、支援先にたどり着くまでが大きなハードルとなり得る。オンラインで手軽に相談できる窓口や、オンライン上で集えるフリースクールなども検討していただきたい。	事業担当課（学校教育課）とご意見を共有します。
21	子育ての楽しさを体験できる機会の提供とともに、性教育・人権教育にも力を入れる必要があると感じる。子どもを生み育てるという選択をできるようになるには、自分が大事にされ、安心した関係性を育むという土壌が必要だ。また、小・中学生への教育とともに、町内に住む大人世代へのアプローチも同時に必要だと感じる。世代間ギャップから親に子育てについて頼れないという子育て世代の声も聞く。子どもとともに大人も今の子育てについて学び、参画していく姿勢を見せることが大事ではないか。	今後の参考にさせていただきます。
22	パブリックコメントの意見書提出の期間を今の2週間よりも長くしてほしい。周知や意見の取りまとめなど期間が短いよう感じる。（意見数2件）	今後の参考にさせていただきます。
23	0～5才のこどもの数は令和6年の242名から91名減少し、令和11年には151名になるとの予測が示されている。全国的に不適切保育の報道も続くなか、保育士の確保問題と労働環境の視点も踏まえて、保育施設の統合について検討の必要があるのではないか。特に大内保育所はすでにかなり人数が少なくなっているが、検討状況は。もしくは統合に踏み切るデットラインは設けているのか。	保育施設の設置運営者（丸森町社会福祉協議会）とご意見を共有します。また、児童数の推計値や保育利用見込み等をもとに、設置運営者と検討を進めていきます。
24	保育施設や学校施設の適正配置については、人数規模による教育効果の違いや施設面環境面での事情など様々な視点があるが、「子育て・教育」の主眼をどこに置くかのビジョンによって、この先の判断が変わると思う。少子化における将来的な方向性をどのように考えるのか。	こどもの保育や学びの環境について、より良いものとなるよう本計画を推進するとともに引き続き施設の適正な規模についても検討していきます。
25	子ども・子育て会議の人員選出はどのように行われているのか。子育て世帯の声が適切に反映されるような工夫はなされているのか。	委員は、こどもの保護者、子ども・子育て支援に関する事業に従事している方、学識経験者の方へ委嘱しております。こどもの保護者は、PTA会長職の方へ委嘱しており子育て世帯としてご意見いただいています。
26	ここまで様々な施策に取り組みされてきているにも関わらず、「丸森町は子育てしやすいまちだと感じる保護者の割合」は令和元年度の32.5%から、令和5年度目標値80%以上を大きく下回り、32.9%とほとんど伸びていない状況を、どのように捉えているのか。それを踏まえて次期計画で改良したポイントはあるか。（意見数2件）	アンケート調査では、町の子育て支援について、経済的支援への満足度は高いものの、医療機関や公共交通機関に対する評価は低いための結果と考えています。引続き子育て支援の充実に向けて取り組むとともに、子ども自身が幸せを実感できるよう、地域や関係機関等と連携して進めていきます。